時事新報

女醫學校の必用を論ず

我國女子の地位と高めて男子と其尊卑を同ふせしむるには女子の智識を增すハ勿論、之に職業を授けざる可らざるとハ今日の輿論にして女子敎育の爲め處々に學校の起るを見るハ我輩の深く喜ぶ所なり殊に職業學校裁縫學校などの設けあるハ女子をして獨立の生活を得せしむるの良方便なるべければ我輩は此等の學校の益々盛大と致すことを祈ると同時に尚希望する所のものあり即ち女醫學校を設けて女子に醫術を習はしむると是なり抑も我國にては在來醫術と以て男子の專業と爲し女子の之を習ふ者甚ぶ稀なりと雖とも其實ハ女子にも亦適當の業にして歐米各國の女子にして醫師たる者少なからず常に男醫と其技倆を爭ふ程なりと云ふ但し女醫男醫各所長あるべければ一概に其優劣を判斷し難けれども醫術の中にて婦人科小兒科產科等の如きハ最も女醫に適するものとして異論なかる可し又聞く所に據れば近來米國のボストン府にて女生に齒科を習はしめたるに其技倆は寧ろ男醫に優れるの事實ありしと云ふ以て其一班を見るに足る可し又治病の成敗は醫學醫術の深淺巧拙に由るハ無論のとなれども實際の病床に臨んでハ學術の外に患者の情感を察するの手段なかる可らず即ち醫師の言語容貌優しくして親切の情溢るゝが如きもの是れなり醫藥能く病を治するも以て人情を醫するに足らず而して今日病床の實際は先づ患者の情と醫して病も共に癒えたるの例ハ醫家の實驗に於て屢々見る所なり例へば我日本にて武骨殺風景なる學醫が往々病家に失敗して無學無術なる古法家の艸根木皮に勝を制せらるゝことも多きも其一證として見る可きものなれば此點より觀察するときハ女醫と男醫と孰れか優劣は讀者の自から發明する所ある可し

凡そ醫師の多寡ハ一國の人口に割合すべき者にして其割合は多きに過ぐるも少なきに過ぐるも共に弊害あると免かれず現に英米兩國は醫師の割合に多きを患ひ又露國は其少なきを患ふる由なれども此等の諸國を以て我國に比するに我國醫師の甚ぶ多きを見るべし明治十八年一月一日の現數合計三萬九千七百八人にして之を全國人口に割合すきも每千人に付一人零五厘なれども米國は人口每千人に付醫師一人六分六厘、英國は奇零七分四厘、佛國ハ奇零七分一厘、獨逸ハ奇零六分六厘、露國は僅に奇零一分五厘にして米國と除くの外みな我國よりも醫師の割合大に少なしとす左れば我國の各地に於て醫師が互に競爭して單に病家の費用を減少するが爲めに或は診察を粗にし或は藥品を撰ばざるの弊害あるも敢て怪しむに足らず殊に漢方醫と洋方醫と常に軋轢するの意味ありて其成跡如何を尋ねれば洋方醫は其治術の正しきにも拘らず流行は却て漢家に歸するもの、如し畢竟我民間にて漢法治療の費用少なきを利とするの致なるのみ

我國にても漢方醫流は一日も速に之を廢止して純然たる[illegible]（今これを洋方醫又は西洋流と云ふ）を普くす可きは勿論にして政府も亦此方向と取ることなれども現に我國の醫師は十中八九までは漢家にして西洋家は十の一二に過ぎず明治十六年一月一日の統計に由れば內外科合計三萬九千七百六十八人の內內務省免許醫三千三百九十五人、府縣免許醫三萬六千三百七十三人とあり此府縣免許醫も十七年一月に及び更めて內務省免許醫と爲せりと雖とも其以前は斯く內務と府縣と兩樣に[illegible]られたることにて內務省免許の分は皆洋家にし[illegible]は大概漢家なれば其後洋の僅に增加して漢の大に減少せし事實あるも今日に於て尚洋方醫の不足を告るは爭ふ可らざるの數なり然るに醫師社會の談話を聞けば三都五港の如きは相當に洋方醫の流行と見れども其餘各地に於ては人々皆醫を擇ぶに遑あらず唯漢家流の治療に費用ハ少なきを悅んで洋家を顧るものなし是に於てか洋家も其本色を維持して高價の器械を使用し高價の藥品を投じて醫門を張らんとするも迚も實際に叶はざることなれを止むを得ず其診察と粗にし其藥品と賤くして果ては漢醫洋醫その實優劣なきの勢を成したりと云ふ實に我輩の歎惜して措く能はざる所のものなり

我國醫流の狀況右の如く現に西洋醫藥の要用と感じながらも人民が多年の習慣に紛れて醫療の費用の少なきを便利とするが爲めに西洋家も其得意の技倆を顯はす能はざるに至れり左きば今鄙言の旨に從ひ大に女醫と養成して漸く漢家に代らしむることあらば女子の生活ハ男子に比して容易なるのみならず人の妻女たるの身にして兼て醫を業とするときは特に大に病家を煩はすに及ばず診察料も手輕にし藥價をも大に貪らずして醫術の目的は則ち達すると得べし故に女醫の業と開くは啻に其生活の方便を得せしむるのみならず亦以て我醫道の進步に益すること少なからざれば此一點より觀察と下ざしても我輩は其養成を希望するものなり

官報

○詔勅

朕惟フニ立國ノ務ニ於テ防海ノ備一日モ緩クスヘカラス而國庫歳入未タ遽カニ其鉅費ヲ辨シ易カラス朕之カ爲ニ軫念シ茲ニ宮禁ノ儲餘三十萬圓ヲ出シ聊其費ヲ助ク閣臣旨ヲ體セヨ

明治二十年三月十四日

奉勅　內閣總理大臣伯爵伊藤博文

○文部省訓令第三號　北海道廳府縣

公私立小學校敎科用圖書採定ノ方法左ノ通心得ヘシ

明治二十年三月二十五日　文部大臣森有禮

公私立小學校敎科用圖書採定方法

第一條　北海道廳長官府縣知事ハ公私立小學校ノ敎科用圖書ヲ新定又ハ更定セントスルトキハ其都度小學校敎科用圖書審査委員ヲ設ケテ其事由ノ當否實施ノ時期等ヲ審議セシメ併セテ圖書ヲ採擇セシムヘシ○第二條　審査委員ハ左ノ諸員ヲ以テ組織スヘシ

一、尋常師範學校長若クハ長補　二、學務課員一名　三、尋常師範學校敎頭及附屬小學校上席訓導　四、小學校敎員三名　五、該地方經濟上ノ情況ニ通スル者二名

○第三條　北海道廳長官府縣知事ハ審査ニ係ル圖書ニ揭載スル所ノ事物ニ通スル敎員等ヲシテ該圖書ノ採擇上ニ限リ審査委員ト同一ノ資格ヲ以テ便宜之ニ參與セシムヘシ但一種類ノ圖書ニ付一名ニ限ルヘシ○第四條　審査委員ニ於テ審査上ニ關スル事項ヲ決定スルハ會議ニ依ルヘキモノトス○第五條　北海道廳長官府縣知事ハ審査委員中ニ就キ審査委員會議ノ議長ヲ命スヘシ○第六條　審査委員ハ自己及其親屬並其地方廳學務課員ノ著撰譯述編纂校閱及出版等ニ係ル圖書ヲ採擇スルコトヲ得サルモノトス但已ヲ得サル場合ニ於テハ北海道廳長官府縣知事ニ其事情ヲ詳具シ認可ヲ經テ本文ノ例ニ依ラサルコトヲ得○第七條　審査委員ハ未タ文部大臣ノ檢定ヲ經サル圖書ト雖モ之ヲ採擇スルコトヲ得、但北海道廳長官府縣知事ハ本文ニ依リ採擇シタル圖書ヲ新定又ハ更定ノ圖書ニ充ントスルトキハ豫メ文部大臣ノ檢定ヲ經ヘシ○第八條　審査委員ニ於テ審査ヲ終ルトキハ其意見及會議ノ顚末ヲ具シ北海道廳長官府縣知事ニ申報スヘシ○第九條　北海道廳長官府縣知事ニ於テ敎科用圖書ヲ新定又ハ更定スルニハ一學科ニ就キ數種ノ圖書ヲ取ルモ若クハ一種ノ圖書ニ限ルモ妨ケナシ○第十條　北海道廳長官府縣知事ハ敎科用圖書ノ新定又ハ更定スル二箇月前ニ於テ其事由實施ノ時期圖書ノ目錄及第八條審査委員ノ申報及第六條但書ノ場合ニ屬スル成分アルトキハ其事情ヲ具シ文部大臣ニ報告スヘシ

○文部省訓令第四號　北海道廳府縣

尋常師範學校敎科用圖書ノ儀ハ該學校敎員ノ會議ニ付シ取調ノ上文部大臣ノ裁定ヲ經ヘシ

明治二十年三月二十五日　文部大臣森有禮

○條約改正會議　第二十六回條約改正會議は本日外務省に於て開く筈なりしが都合により來卅一日に延會せり（以上本年三月廿五日官報）

雜報

○米國陸軍大臣の不人望　合衆國の陸軍大臣エンヂコット氏ハワシントン府に於て最も不人望の人にして尚ほ益々不人望ならんとするの傾あり抑も何故に斯く不人望なるやと云ふにエンヂコット氏は人に面會することを好まず氏に面會を求むるハ大統領クリーヴランド氏に面謁を乞ふよりも遙かに困難なるが故に陸軍省と訪ふものは甚ぶ少なく適々氏と訪はんと欲するもあるも玄關に取次ありエンヂコット氏の命を受け居て來訪者に向ひ名刺を求むるのみならず如何なる用事ありて面會を求むるかを問へり或時ヘンリー ワッターソン氏所用ありて來訪せしに取次ハ常の如く來意と尋ねたるに付氏はエンヂコット氏に面會の上直樣に來意を語るべしと答へたれば取次ハ怪しみながら名刺を請ひ受けて內に入りしが暫くして出で來りエンヂコット氏の語を傳へて曰くワッターソン氏と云へる人は曾て面識なき人なり且前以て來由を告げざる人には面會する能はずと終に其儀謝絕せられたりと云へり又去る二月中旬の事なるがメキシコよりフロリダを經てワシントンに歸りたるチャーレス ワーナー氏の一行が大統領を訪れて種々談話の內フロリダ砲臺の事を物語り初め同所砲臺付の士官某は士人を殘酷に取扱ひたる嫌疑を以て禁錮せられ居たるがワーナー氏が實地の事情を物語りたる所に據れば全く事實相違せるのみならず前以て相違せる旨の通知もありさる事なきば大統領は大に此等無關係の人々より事實を確めたると喜びワーナー氏の一行に向つて陸軍大臣に此事と證明せんことを請へり依てワーナー氏の一行よりは右事實に最も明かなる人を撰び陸軍省に赴かしめたれば同人は例の如く名刺を渡し且大統領よりの依賴を受けてフロリダ砲臺の實情を陳べんが爲めに來りたる旨を通ぜしるにエンヂコット氏ハ今外出せんとする時なきばとて面會を承知せず又再び來訪せんこととも請はざりしと近着のシカゴ新聞に見へたり

○英國の船舶製造業　英國に於ては諸職業の內にて船舶製造業ほど盛衰の著しきものはなければ此業に從事するものは鐵の如く硬くして容易に働かざる神經を有する者ならでは叶はざることとなるが其盛衰の著しきは該國の船舶賣買會社より近頃出版せる一千八百七十九年以來の船舶噸數增減比較表を見きも明に知るを得べし一千八百八十三年には英國の商賣汽船は三百二十四艘を增し噸數は六十三萬三千八百六十八噸を加へたるも風帆船は二百十艘を減し噸數は合計六萬四千三百四十七噸を減したれば差引純粹の噸數增加ハ六十萬噸以下なりしが其翌年なる一千八百八十四年には差引純粹の增加噸數ハ四十二萬噸にて一千八百八十五年には僅に十二萬噸なりし左れば斯く年々に噸數增加の減少するより考れば船舶製造者は英國船舶製造の泉源は既に汲み盡して其底と見るに至りたりと考ふるに至るは疑なかるべしさりながら昨年は汽船五萬七千四百九十五噸を增し風帆船ハ三萬八千九百五噸を減し差引一萬七千五百九十噸の純粹の噸數增加したれば固より三年前の六十萬噸の增加に比すきば僅少の者なれども未ざ泉源を汲み盡したるにはあらず現に角に目下英國に於ては石炭貯蓄所の議論喧しき際なれば英國ハ軍艦を除

●大日本教育會總集會廣告
●大日本教育會懇親會廣告
●穎才新誌合本